

だれもが関わり合えるように

発表原稿

T * S

ぼくは空港と飛行機の身体の不自由な方のためのサービスについて調べました。理由は今年の夏日本に一時帰国した時に、足をけがしていたぼくの姉が体験したからです。

こちらは足や身体の不自由な方のための車いすです。折りたためるものや機内に入れるもの、リクライニングをできるものもあります。解除してくれる方も手配してくれます。空港内を走る電動カートや座ったままタラップを昇降できるリフトバスやエスマックスもあります。機内に優先的に搭乗させてくれたり、足元の広い席を用意してくれることもあります。

目や耳の不自由な方のためのサービスもあります。機内には点字メニューなどもあります。ぼくの姉はたくさんの方に助けていただいたて、快適に日本に行くことができました。ぼくは体の不自由な方のために素晴らしいサービスがあることに感動しました。

Y * A

皆さん、このかわいい犬のステッカーをどこかで見たことがありますか。これは補助犬を表す印です。わたしは日本の家近くにある京急百貨店に行ったとき、このステッカーを見たことがありました。この印は、補助犬ならば百貨店の中に連れて行ってよいという意味なのです。今回、補助犬とはどういう犬なのかインターネットでくわしく調べてみました。

補助犬には、三つ種類があります。①盲導犬、②介助犬、③聴導犬です。

一つ目の盲導犬は目の不自由な人が安全に歩けるように手助けする犬です。曲がり角や段差を教えます。おなかのところにハーネスをつけているのがとくちょうです。

二つ目の介助犬は、手足が不自由な人にかわって落し物を拾ったり、ドアを開けたり、スイ

ッチを押ししたり、着替えるのをてつだったりします。

三つ目の聴導犬は、耳の不自由な人に変わって音を聞き、それを伝えます。車のクラクション、ドアのチャイム、赤ちゃんの泣き声などを教えます。

調べてみて、補助犬がこのような大切な仕事をするために、私たちはじゃまをしてはいけないことが分かりました。

補助犬は、ペットの犬とは違って、特別な訓練を受けています。例えば、食事や水の量、食べる時間や飲む時間が決められています。お仕事をしているときに、突然トイレに行くようなことがあると、飼い主が困るからです。

私たちができることは、かわいいなあとさわったり、食べ物を与えたり、じっと見たりしないようにすることです。でももし飼い主が困っていたら、わたしは「大丈夫ですか。お手伝いできることはありますか。」と声をかけようと思います。そして、補助犬のことを知らない人がいたら、教えてあげようと思います。

C * D

皆さんは目の不自由な人たちは働くことができると思いますか。

ぼくは、できないと思いました。だれかが二十四時間、目の見えない人の世話をしないといけないと思っています。

でも、生活をするには、お金がいるのでどうやってお金を稼いでいるのか知りたくなりました。それでインターネットを使って答えを探しました。

調べて分かったことは、健常者と一緒で目の不自由な人も訓練すれば、働くことができるということです。

人気のある職業は、マッサージ師です。マッサージ師は、国家試験を受けなければならないことができます。もう一つは、音声パソコンやタブレットを使ったデータ入力の仕事です。

ぼくは、目が見えなくても働くことができます。というのを知ってびっくりしました。

新しい発見ができてよかったです。

G * M

みなさんは、耳が聞こえなかったらと、考えたことはありますか。目も見えなかったら？ヘレンケラーは耳も目も不自由でした。

目も耳も不自由なヘレンケラーは、どうやって言葉を学んだり、他の人と話をしたのかと不思議に思いました。それで、ヘレンケラーのことを調べました。

インターネットを使って調べましたが、先生がどうやって目の見えないヘレンケラーに手話を教えたのかわからなかったから、「きせきのヘレンケラー物語」の映画を見ました。

映画を見て分かったのは、アンサリバンはヘレンの先生でした。サリバン先生は、ヘレンの手の上で手話すること、ヘレンに手話を教えました。それは、かんたんなことではありませんでした。でも、先生ががまん強く教えたおかげでヘレンは手話を覚えることができました。そのことで、ヘレンは他の人と会話ができるようになったのです。

目も耳も使えないなんてとても大変だと思いました。でもヘレンは、サリバン先生に出会って人に気持ちを伝えることができるようになりました。そのおかげでヘレンの世界が変わったと思いました。アンサリバン先生みたいな人を増やして、ヘレンみたいな子を助けたいです。そしたら、ヘレンみたいな子は、チャンスがいっぱいできると思います。

S * S

みなさん、この手話はどんな意味かわかりますか？ありがとうございます、これは日本でのありがとうございますです。

わたしは日本とアメリカの手話について調べました。補習校で手話のビデオを見て、「アメリカと日本は違うんだな。」と思ってきょう味を持ったからです。

アイパットを使って、インターネットで調べ

ました。手話とは耳が聞こえない人とのコミュニケーションの方法です。

日本での「ありがとう」は、右手の甲を左手で軽くたたき、右手を拝むように上にあげます。アメリカでは、右手を口元から話して「投げキッス」の動作をします。

私の知り合いの一歳半の赤ちゃんはよくこの「投げキッス」の動作をします。わたしは、今まで気が付かなかったのですが、これはベビーサインの「ありがとう」の意味だったことが分かりました。ベビーサインとは言葉が上手に話せない赤ちゃんとのコミュニケーションの方法です。ベビーサインはアメリカの手話をもとにつくられています。ということは、ベビーサインを覚えた赤ちゃんは、アメリカの手話を覚えたということになるのだと思います。しかし、日本とアメリカの手話は違います。

わたしは、「ベビーサインと同じようにアメリカと日本の手話が共通だったらわかりやすいのにな。」と思いました。実は、私も小さいころにベビーサインを覚えていたそうです。それを今も覚えていれば、アメリカの手話が少しだけわかったかもしれません。

わたしは、今回手話のことを少し知って、きょう味を持ったので、もっと手話を知りたいと思います。

H * R

最近よく聞く「バリアフリー」という言葉。皆さんはバリアフリーという言葉を知っていますか。「バリア」とは、じゃまをするものという意味。「フリー」は、そのようなじゃまなものがないという意味です。

ぼくは、足が不自由な人はどうやって生活しているかを調べました。ぼくのひいおばあちゃん足が不自由だったので調べたいと思いました。

調べるのに、インターネットを使いました。みなさんこの写真を見てください。日本のひいおばあちゃんの家トイレを工事しました。段差を取ってスライディングドアに変えて、手す

りを付けました。なぜなら、車いすに乗っている人は段差があると通れないし、前後ろに開くドアも通れないし、手すりがないと、座ったり立ったりしにくいからです。車いすに乗る人でも、一人でトイレに行けるようになったとわかりました。

もし、バリアフリーとかなかったら、足が不自由な人はとても大変で生活しにくいと考えました。このように、バリアフリーの場所が増えたらいいと思います。

C * H

皆さん、バスや電車にのったことがありますか。もし、乗ったことがあれば、優先席というもの聞いたことがありますか。

ぼくは、優先席のことについて調べました。理由は、優先席にはどういう人がすわるのかくわしくしたいとおもったので、調べました。

インターネットを使って調べました。

優先席をしめすステッカーが電車内やバスの中にはあります。お年寄りの方、体の不自由な方、心ごうなどの内部障害のある方、にんしんされているかた、小さい子供を連れている方が優先席にすわれます。

見た目ではしょうがい分かりづらい人のために、ヘルプマークがあります。ヘルプマークを付けている人がいたら、席をゆずらないといけません。

他にも、アメリカのニューヨークの地下鉄には P R I O R I T Y S E A T というものがあります。高齢者やしょうがい者に譲らなかった場合は五十ドルばっ金がかせられます。

人の外見だけでは優先されるか見分けがつかない人のためにヘルプマークがあるのがいと思います。これからは、日本に帰った時に電車やバスに乗るときがあれば、席をゆずりたいと思います。

F * Y

みなさんは、耳の不自由な人がどんな方法で

話しているかを知っていますか。ぼくは紙に書いて会話すると思っていました。ぼくは、ほかにどんな方法があるか知りたくて調べました。

インターネットを使って調べ、メモを取りました。主に三つの方法があることがわかりました。

一つ目は、みんなで勉強した手話です。道具がいらないのはいいところですが、練習がたくさん必要です。

二つ目は、筆談です。筆談は書いて話すことです。紙や筆談ボードに書きます。筆談ボードというのは、これです。何度でも書いたり消したりすることができる道具です。筆談のいいことは、練習がいらないことです。悪いところは、移動中には使いにくいことと、字の書けない小さな子などにはおぼろしいことです。

三つ目は、読話です。これは相手の口の動きを見て話の内容を理解することで、読しんともいいです。いいことは、道具がいらないことと、話し手が楽なことです。悪いところはマスクなどで口が見えないとわからないことと、聞き手は少し練習が必要なことです。

ぼくは、この三つの方法よりもいい方法を発明し、耳の不自由な人ともっと楽に会話できるようにしたいと思います。